

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成30年2月1日(2018.2.1)

【公表番号】特表2017-500394(P2017-500394A)

【公表日】平成29年1月5日(2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-001

【出願番号】特願2016-535257(P2016-535257)

【国際特許分類】

C 08 L 83/14 (2006.01)

C 08 L 83/06 (2006.01)

C 08 K 5/5419 (2006.01)

C 08 K 3/36 (2006.01)

C 08 K 3/22 (2006.01)

【F I】

C 08 L 83/14

C 08 L 83/06

C 08 K 5/5419

C 08 K 3/36

C 08 K 3/22

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月14日(2017.12.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

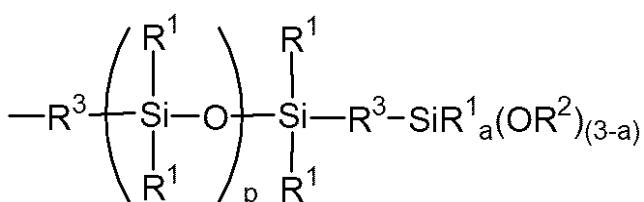
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(A) 分子鎖中のケイ素原子に、一般式：

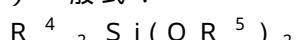
【化1】



(式中、R¹は同じかまたは異なる、脂肪族不飽和結合を有さない一価炭化水素基であり、R²はアルキル基であり、R³は同じかまたは異なるアルキレン基であり、aは0~2の整数であり、pは1~50の整数である。)

で表されるアルコキシリル含有基を一分子中に少なくとも2個有するオルガノポリシリコン

(B) 一般式：



(式中、R⁴は一価炭化水素基であり、R⁵はアルキル基である。)

で表されるジアルコキシランまたはその部分加水分解縮合物である架橋剤、および

(C) 縮合反応用触媒

を含有し、更に

(D) 平均単位式：



(式中、R₆は同じかまたは異なる一価炭化水素基であり、bは0.5～1.5の数である。)

で表されるシリコーンレジン；

(E)分子鎖中のケイ素原子に水酸基およびアルコキシ基を有さないオルガノポリシロキサン；

(F)接着促進剤；及び

(G)補強性充填剤；

のうち任意に一つまたは複数の成分を含有する室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項2】

(A)成分の25%における粘度が100～1,000,000 mPa·sの範囲内である、請求項1に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

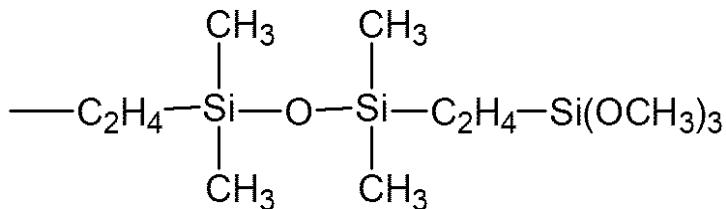
【請求項3】

(A)成分が、分子鎖両末端のケイ素原子にアルコキシシリル含有基を有する直鎖状のオルガノポリシロキサンである、請求項1または2に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項4】

(A)成分中のアルコキシシリル含有基が、式：

【化2】



で表される基である、請求項1～3のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項5】

(B)成分が、ジメチルジメトキシシラン、メチルフェニルジメトキシシラン、またはジフェニルジメトキシシランである、請求項1～4のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項6】

(A)成分100質量部に対して、(B)成分を0.5～30質量部含有し、(C)成分を0.1～10質量部含有し、(D)成分を10～250質量部含有する、請求項1～5のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項7】

(F)成分を含み、(F)成分が、エポキシ基含有アルコキシシラン、アクリル基含有アルコキシシラン、アミノ基含有アルコキシシラン、およびエポキシ基含有アルコキシシランとアミノ基含有アルコキシシランとの反応混合物からなる群より選択される少なくとも一種の接着促進剤である、請求項1～6のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項8】

(G)成分を含み、(G)成分が、ヒュームドシリカ微粉末、沈降性シリカ微粉末、焼成シリカ微粉末、およびヒュームド酸化チタン微粉末からなる群より選択される少なくとも一種の補強性充填剤である、請求項1～7のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物。

【請求項9】

請求項1～8のいずれか一項に記載の室温硬化性シリコーンゴム組成物を(A)成分と(B)成分を架橋させるよう硬化させてなる、シリコーンゴム硬化物。

【請求項10】

請求項 9 に記載のシリコーンゴム硬化物を備える、電子機器。

【請求項 11】

請求項 9 に記載のシリコーンゴム硬化物を用いる、電子機器の補修方法。